

## 平成18年2月の解説（週間天気予報）

### 【2月の天候状況】

月の前半は、初めに低気圧が日本付近を通過して全国的に雪や雨が降りましたが、その後は冬型の気圧配置となって、日本海側の地方では雪や雨の日が多くなり、太平洋側の地方では晴れの日が多くなりました。月の後半は、低気圧が5日程度の間隔で日本付近を通過して全国的に雪や雨が降りましたが、低気圧の通過後は日本の南海上に前線が停滞することが多く、東日本、西日本の太平洋側の地方では曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、全国的に平年に比べて少なく、特に北日本の一部の観測地点では平年の80%を下回りました。降水量は日本海側の地方では平年より少なく、太平洋側の地方では平年より多くなり、特に東日本、西日本の太平洋側の地方では多くの観測地点で平年の170%を上回りました。平均気温はほぼ全国的に平年並か平年より高く、太平洋側の地方では平年より1以上高くなった観測地点もありました。

### 【2月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年<sup>（注）</sup>より1ポイント低い70%でした。関東甲信、中国、四国、九州北部地方では4ポイント低くなりましたが、北海道地方では6ポイント、東北地方では4ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1大きい2.6で、関東甲信、近畿、四国、九州南部地方では例年より0.3から0.4大きくなりましたが、そのほかの地方は例年と同様でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.2大きい2.4で、特に近畿地方では0.5、四国地方では0.4、それぞれ例年より大きくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【2月の週間天気予報から】

前線が停滞すると数日間に渡って雨が降りやすい状態が続きぐずついた天気になることがあります。必ずしも毎日連続して雨が降るわけではなく、前線の位置や活動の状況によっては雨の降らない日もあります。

今年の2月後半は日本の南海上に前線が停滞することが多く、東日本や西日本の太平洋側の地方で曇りや雨の日が多くなりました。20日発表の週間天気予報では24日（4日目）から26日（6日目）にかけて、日本の南海上に前線が停滞する予想で、雨が降る可能性が高い（図1から3：陰影は降水が予想される範囲）ことから、東京地方に24日から26日の3日間とも雨が降る予報を発表しました。実際は、24日は夕方から深夜まで、26日は朝から宵

のうちまで雨が降りましたが、それ以外は東京地方ではほとんど雨は降りませんでした。これは、前線が南

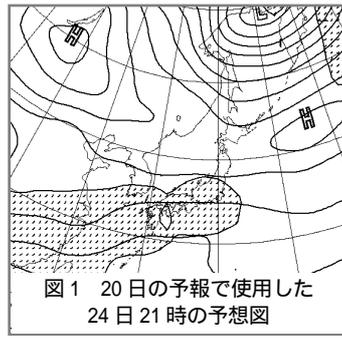


図1 20日の予報でを使用した  
24日21時の予想図

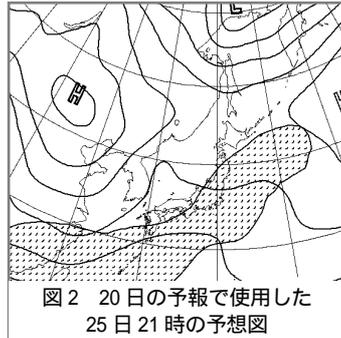


図2 20日の予報でを使用した  
25日21時の予想図

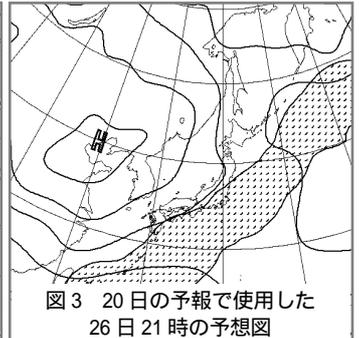


図3 20日の予報でを使用した  
26日21時の予想図

下した後に消滅し、日本付近が高気圧に覆われたためです。

数日先に雨が降る可能性が高い気象条件が予想される場合でも、特に停滞前線に伴う降水の場合などは、前線の小さな動きや活動の強弱の変化を細かく予測することが難しく、雨の日が1日ずれたり、結果として雨が降らなかったりすることもあります。常に新しい予報をご利用ください。

#### 【4月の週間天気予報の利用にあたって】

4月は、低気圧が通過した後に、北からの冷たい空気を持った移動性高気圧に覆われて穏やかに晴れる日が続くことがあります。高気圧に覆われた日中は日射のために暖かく穏やかな日よりとなりますが、夜には晴れることで地表からの熱が放出しやすくなるため急速に気温が下がって翌朝の最低気温が低くなります。

2001年4月は日本付近は移動性高気圧に覆われることが多く、全国的に晴れの日が多くなりました。下旬には北からの冷たい空気が日本付近に流れ込んだために気温が低い日が多くなりました。特に

23日、26日、27日には夜間に晴れたこともあって朝の気温が低くなりました。長野県の松本市では平年に比べて日最低気温が5以

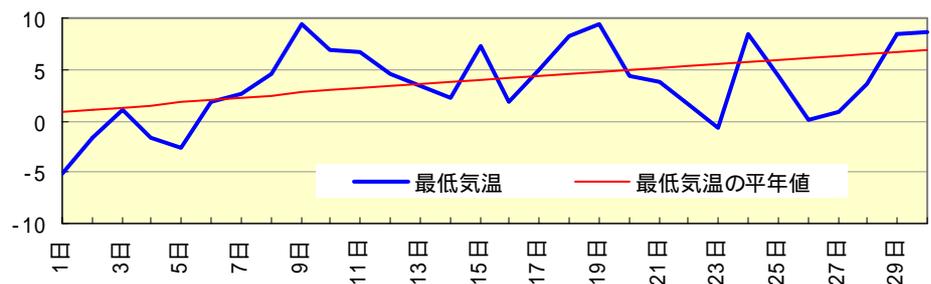


図 2001年4月の松本の日最低気温

上低くなり、0 前後まで下がり(図)、長野県では大規模な霜害が発生しました。

天気予報で夜から明け方にかけて風が弱く晴れる予報が出ている日は、夜に入ると気温が下がり朝の冷え込みが強くなりますので健康管理などに気をつけましょう。また、気温が0 近くまで下がる場合には、霜が降りるおそれがありますので、霜に弱い農作物や観葉植物などの管理には注意が必要です。